

都立大崎高等学校(全日制課程)

【校長】 大塚 香
【生徒数】 811名
【学級数】 21学級



【実態・目標】

- 規則正しい生活ができず、睡眠や食事、運動習慣など、基本的な生活習慣が身につけていない生徒が多い。
- ⇒将来家族を持ち、健康で活力のある毎を送るための基本的な生活習慣について学ぶ。
- ⇒結婚や妊娠、出産等について、自身が選択、決定できる人生を送るための知識を身につける。

【取組】

- 保健体育授業における主体的な学び
⇒座学にて健康に寄与する生活習慣について学び、実技にて運動の効果を感じ取る。
- 教員の指導力向上のため日本思春期学会学術集会に参加
⇒教員の指導力向上を図る。
- 産婦人科医を招いた授業の実施
⇒性に関する正しい知識を学び、健康や生活習慣とどのように結びついているか考え、能力を養う。

目標

自らの健康への意識を高め、生涯健康を保持増進し、自身で人生を選択できる資質能力の育成

【課題・改善】

- 産婦人科医による講演会の実施時期が遅かったため、講演会後の学習効果や生徒の変化に対する評価が短期的になってしまった。

→【今後の取組】

- 2学年の保健授業で性に関する学習を予定しているため、その授業の際に、産婦人科医による講演会が活かされているか確認する。

【成果】

- 生徒の意識に関する成果
規則正しい生活が自身の心や体にどのような影響を及ぼすか、自分事として捉えられるようになった。
- 生徒の態度に関する成果
敬遠しがちな性に関する内容の授業も、事前学習と産婦人科医による授業を通して、生徒が自分事として捉えられている様子が伺えた。
- その他(教員の授業改善など)
生活習慣と性教育を結びつけ、より現実的な内容の授業を提供することができた。
体育の授業を活用して、授業を展開することができた。

【取組(詳細)】

○保健授業「健康を保持増進する生活習慣の確立」

- ・保健の授業において、将来に向けた健康で生き生きとした毎を送るための基本的な生活習慣について、特に睡眠、食事、運動が大きく影響を及ぼすことを学ぶ。
- ・体育の授業において、本事業の予算でトレーニング機器を購入した。授業では、購入した機器を活用し、トレーニング方法等について学ぶことができた。生徒は、実践による学びを通して、心身にどのような変化が起こるのか学ぶことができた。



体育授業の様子

○教員の指導力向上のために日本思春期学会学術集会に参加

日	時間	内容	講師
8月30日	10:00-11:30	開会式	山本 浩一
8月30日	11:30-12:30	講演「思春期の性教育とリプロダクティブ・ヘルス」	佐藤 美穂
8月30日	13:00-14:30	講演「デジタル世代の挑戦と機会」	田中 健一
8月30日	14:30-16:00	講演「プレコンセプションケアや産婦人科医が思春期世代にどのようにアプローチをしているか」	鈴木 花子
8月30日	16:00-17:30	講演「発達と睡眠」に関するシンポジウム	山本 浩一
8月31日	10:00-11:30	講演「思春期の性教育とリプロダクティブ・ヘルス」	佐藤 美穂
8月31日	11:30-12:30	講演「デジタル世代の挑戦と機会」	田中 健一
8月31日	13:00-14:30	講演「プレコンセプションケアや産婦人科医が思春期世代にどのようにアプローチをしているか」	鈴木 花子
8月31日	14:30-16:00	講演「発達と睡眠」に関するシンポジウム	山本 浩一
8月31日	16:00-17:30	閉会式	山本 浩一

プログラム

<日本思春期学会学術集会内容>

今年度のテーマは「思春期の性教育とリプロダクティブ・ヘルス デジタル世代の挑戦と機会」となっており、プレコンセプションケアや産婦人科医が思春期世代にどのようにアプローチをしているか、実践的な情報を得る機会となった。本学会内での「発達と睡眠」に関するシンポジウムの内容を活用し、生活習慣に関する授業の改善を図った。
(8月30・31日@旭川アートホテル)

○産婦人科医を招いた公開授業の実施

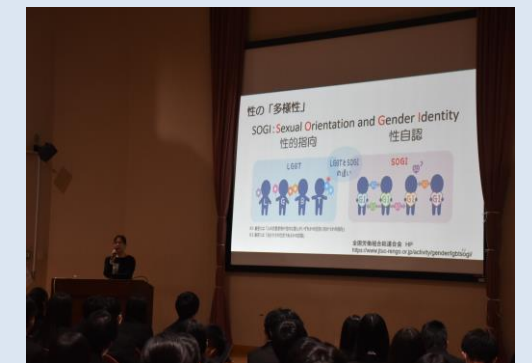
<内容>

- 1.性と生、性的同意、性の多様性
- 2.月経・妊娠のメカニズム
- 3.月経のトラブルと対処法
- 4.妊娠と避妊、中絶、性暴力被害
- 5.性感染症、がん、ワクチン

<講演会後の生徒アンケートより>

- ・自分の体を大切にしようと思えた。
- ・将来のために頭にしっかり入れておこうと思った。
- ・女性についての病気や制度中心だったから、男性についても知りたい。

など、様々な学びがあったことが伺えた。



講演会の様子